

爆たり
四中
学校たより

みがきあう

20限目

2月20日(金)



こんな人
になってほしいな
その1

大人になっていく君たちへ...

早いもので、もう2月はあと1週間です。3年生は2週間すると卒業式となります。3年生が、この汚い字を見るのもあと2回です。そこで、ある本にのっていたディズニーランドのスタッフのエピソードを紹介しますね。どんな大人になって、どんな仕事をしていくのか。ひとつの参考になれば、と思います。

ある日、ディズニーランドのインフォメーションにお母さんが元気なさそくにやってきて言いました。「実は今日、子どもと一緒に来たんです。子どもが「ミッキーちゃんだとか、ミニちゃんだとかのキャラクターにサインをしてほしい」と言っていたので、サイン帳を持ってきたんです。子どもは、キャラクターを見つけると、一人一人にサインを書いてもらっていました。そして、あと少してサイン帳が全部うまる、というところで、そのサイン帳を失くしてしましたんです。落とし物で届けられていないか、と思て来てみたんですが、ありませんか?」

そのインフォメーションには、サイン帳は届けられていませんでした。そこで、そのスタッフはいく人な所に電話をしてみたのですが、どこにも届けられていなかったんです。そこで、そのスタッフは、サイン帳の特徴を詳しく聞いた後、

「いつまで、ご滞在されますか?」と聞いたそうです。その家族は、2日後のお昼には帰らなければならなかったそうです。スタッフは、それを聞くと、

「それでは、この後、もう少し探してみますので、2日後、お帰りになる前に、もう一度、こちらにお寄りいたたけますか?」と言ったそうです。➤

そして、お母さんが帰られた後、そのスタッフは、さらに細かな部署に電話をかけて聞いたり、自分の足で駐車場や、心当たりのある場所を探し回ったそうです。ところが、どうしても見つかりませんでした。で、そのスタッフは、どうしたかという、そのサイン帳と同じサイン帳を自分で買って、自分の足で、いく人な部署を回って、キャラクターのサインを全部書いてもらって、当日を迎えたそうです。

当日は、お父さんがやってきました。たぶん、ほとんどあきらめていたと思います。スタッフは、お父さんに言いました。「申し訳ございませんでした。サイン帳は見つけることができませんでした。でも、お客様、こちらのサイン帳をお持ち帰りください。」

お父さんが、ビックリして、中を見ると、キャラクターのサインが全部書いてあるではないですか!? お父さんは、もちろん大喜びして「ありがとうございます!!」と、持て帰ったそうです。

……で、この話はまだまだ続きます。後日、ディズニーランドに、そのお父さんから、一通の手紙が届きます。その内容とは...、長くて入りきれないので、次回で紹介します。



公衆電話機の撤去と設置について

先日、別紙で通知しましたが、公衆電話の設置基準に関する法令が随分と利用額が少なく本校の公衆電話は撤去されることになりました。しかし、電話がなくなると困る部分も出てくるため、職員の特設会計等から電話を購入して別のものを設置することにしました。ただ、カード式の電話は販売されていないため、10円か100円玉しか利用できません! そこで、来週からは、電話をかける場合は、10円か100円を準備しておいていただく必要があります! 100円からは、おつりが出ませんので、よろしくお願いします。

返信
よろしくお願ひ
します!



文献:「私が一番受けた1300の授業」, 比田井和孝, 比田井美穂著より。